

地域スポーツコミュニケーションの経営多角化及び新規設立に向けた  
総合コンサルティング  
報告書

2025年3月

一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構

## 目 次

<b>第1章 総合コンサルティングの実施概要</b>	01
1. 総合コンサルティングの実施概要	01
<b>第2章 総合コンサルティングにおける支援事例</b>	03
1. 設立支援	
①長野県野沢温泉村	03
②静岡県下田市	07
2. 経営多角化支援	10
①一般社団法人笠間スポーツコミュニケーション（茨城県笠間市）	10
②栃木県スポーツコミュニケーション（栃木県）	13
③那須塩原スポーツコミュニケーション（栃木県那須塩原市）	16
④久喜スポーツコミュニケーション（埼玉県久喜市）	19
⑤金沢文化スポーツコミュニケーション（石川県金沢市）	23
⑥韮崎市スポーツコミュニケーション（山梨県韮崎市）	26
⑦西尾市観光・スポーツ・文化共創協議会（愛知県西尾市）	30
⑧一般財団法人どんぐり財団（広島県北広島町）	33
⑨SAGA 武雄温泉スポーツコミュニケーション（佐賀県武雄市）	37
⑩スポーツ観光おおさき（鹿児島県大崎町）	41
⑪スポーツコミュニケーション沖縄（沖縄県）	45
⑫沖縄市スポーツコミュニケーション（沖縄県沖縄市）	49
⑬石垣島スポーツコミュニケーション（沖縄県石垣市）	53

## 第1章 総合コンサルティングの実施概要

### 1. 総合コンサルティングの実施概要

スポーツ庁では、地域スポーツコミッショナ（以下、地域SC）の新規設立支援（2020年度～）や同組織が行う長期継続的・通期通年型の取組に対する支援（2015年度～）を補助事業により実施してきた。2024年度においても、地域スポーツコミッショナの設立及び地域スポーツコミッショナの経営多角化を目的とした補助事業を実施する。この補助事業の効果の最大化を図るため、スポーツ庁は「地域スポーツコミッショナ基盤人材育成サポート事業」を委託事業にて実施する。同事業を受託した事業者は「スポーツによる地域活性化・まちづくりを推進していく組織である地域SCの新規設立に取り組む地方公共団体」や「経営多角化等に向けて複合的な事業に取り組む地域SC」の取組に対する総合的なコンサルティング（側面支援）を行う。本事業の受託者である一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構（JSTA）は、表1及び表2に示す自治体・団体に対して総合コンサルティングを行った。

表1 設立支援の採択自治体（担当部署）

自治体名	人口（人）	担当部署
長野県野沢温泉村	3,603 (2025.2.28)	観光産業課
静岡県下田市	19,184 (2025.3.1)	教育委員会生涯学習課

表2 経営多角化支援の採択コミッショナ（担当部署）

団体名	自治体名	人口（人）	担当部署
一般社団法人笠間スポーツコミッショナ	茨城県 笠間市	30,149 (2025.3.1)	教育委員会生涯学習課
栃木県スポーツコミッショナ	栃木県	1,877,867 (2025.2.1)	生活文化スポーツ部スポーツ振興課
那須塩原スポーツコミッショナ	栃木県 那須塩原市	113,381 (2025.3.1)	産業観光部ツーリズム推進課
久喜スポーツコミッショナ	埼玉県 久喜市	150,787 (2025.3.1)	健康スポーツ部スポーツ振興課
金沢文化スポーツコミッショナ	石川県 金沢市	454,576 (2025.3.1)	経済局観光政策課
韮崎市スポーツコミッショナ	山梨県 韮崎市	27,703 (2025.3.1)	教育委員会教育課
西尾市観光・スポーツ・文化共創協議会	愛知県 西尾市	169,362 (2025.3.1)	交流共創部スポーツ振興課
一般財団法人どんぐり財団	広島県 北広島町	16,882 (2025.2.28)	まちづくり推進課
SAGA 武雄温泉スポーツコミッショナ	佐賀県 武雄市	46,860 (2025.3.1)	企画部スポーツ課
スポーツ観光おおさき	鹿児島県 大崎町	11,884 (2025.3.1)	商工観光課
スポーツコミッショナ沖縄	沖縄県	1,467,901 (2025.2.1)	文化観光スポーツ部スポーツ振興課
沖縄市スポーツコミッショナ	沖縄県 沖縄市	141,624 (2025.3.1)	経済文化部観光スポーツ振興課
石垣島スポーツコミッショナ	沖縄県 石垣市	49,746 (2025.2.28)	企画部スポーツ交流課

## 第2章 総合コンサルティングにおける支援事例

### 1. 設立支援

#### 事例① 長野県野沢温泉村

##### 1) 自治体の概要

野沢温泉村は、長野県の北部に位置し、南側は毛無山の尾根を境に木島平村に接し、西側は千曲川を隔てて飯山市と境をなしている。村の面積の 50.7%を山林が占め、景観の良さなどから上信越高原国立公園に指定されており、それらの一部を含む 2.97k m<sup>2</sup>が現在スキー場区域となっている。古くから温泉地として栄えていた当地は、1923 年の野沢温泉スキー倶楽部の発足から、スキー産業を主産業とすべく、1963 年にスキー場施設のすべてを村営とし、住民と行政とが一体となって観光地開発を進めてきた。さらには 2005 年にスキー場の管理運営を村から株式会社野沢温泉へ移管し、時代の変化に対応したスピーディーで効率的なスキー場運営のために民営化を実現した。近年スキー・スノーボード目的の訪日外国人に人気な「和の滞在型スノーリゾート」として存在感を増している。現在の人口は約 3,400 人。



2021 シーズン稼働・新長坂ゴンドラ

##### 2) スポーツコミッショナの設立に至った経緯／設立目的

100 年の歴史を持ち多数のオリンピアンを輩出してきた野沢温泉スキークラブであるが、少子高齢化やスキー業界の縮小により事業継続が難しく、小学生からトップ選手までを一貫して指導するシステム維持が困難となってきている。観光関連組織においては、2024 年 4 月に「野沢温泉観光協会」が地域 DMO 「(一社) 野沢温泉マウンテンリゾート観光局」へ組織を移行した。野沢温泉スキークラブ創立 100 周年を契機に、持続的かつ効果的に人材育成、選手強化を行える新たな組織へ進化し、法人化を目指すべく、関連団体と連携した協議会としての地域スポーツコミッショナ（会議体）の設置を目指す。

3) 設立に向けた動き

日付	取組内容
2024年6月28日	野沢温泉スポーツコミッショナ設立のための研修会 ・初回関係者会合 ・スポーツ庁補助事業採択について説明
2024年8月22日	第1回野沢温泉スポーツコミッショナ設立検討委員会 ・地域スポーツコミッショナの役割・課題【JSTA】 ・地域スポーツコミッショナ先進事例【地域力創造アドバイザーランブリッジ】
2024年8月27日	野沢温泉DMO／ランブリッジ/JSTAオンラインミーティング ・今後の進め方について
2024年8月28日	JSTAより視察先候補提案 <法人化・事業化・収益化に成功しているSC> NPO東北海道SC/(一社)とうみ湯の丸高原SC/NPO掛川市スポーツ協会/NPO出雲スポーツ振興21/NPO銚子スポーツコミュニティ=株銚子スポーツタウン <スノーリゾート地域のDMO> (一社)大雪カムイミンタラDMO
2024年9月18日	第2回野沢温泉スポーツコミッショナ設立検討委員会 目指す姿とアクション(ワークショップ) ・野沢温泉村でスポーツを用いて解決したい課題 ・スポーツコミッショナを立ち上げた時の野沢温泉村の未来のアイデアやイメージを出すワーク
2024年11月20日	第3回野沢温泉スポーツコミッショナ設立検討委員会 ・野沢温泉スポーツコミッショナ基本計画 ・スポーツコミッショナの組織体制 ・事業内容についての意見交換
2024年12月18日	第4回野沢温泉スポーツコミッショナ設立検討委員会 ・野沢温泉スポーツコミッショナ基本計画協議、野沢温泉イベント受入れ実行委員会をSCとして組織化する案が浮上
2025年2月7日	野沢温泉DMOよりスポーツ庁へ報告 ・スポーツコミッショナ設立の意思決定は3月にずれ込み、3/30に村長選挙が実施されることから、設立記念シンポジウムは2024年度中には開催しないことを報告

2025年2月19日	村長/スキークラブ/イベント受入れ実行委員/野沢温泉DMO ・スポーツコミッショん設立の経過説明及び合意取得
2025年3月3日	野沢温泉DMOよりスポーツ庁へスポーツコミッショん設立について 村長の内諾を得られたことを報告 ・スポーツ庁より設立意思確認の村の公文書作成を依頼 ・3月30日に村長選挙が実施される予定のため、本年度中に設立記念シンポジウム等の開催は困難であることを重ねて報告
2025年3月28日	スポーツコミッショん設立検討委員会事務局（野沢温泉DMO・ラン ブリッジオンラインミーティング）において今後の進め方について 協議
2025年3月31日	野沢温泉村村長名でスポーツ庁次長宛「野沢温泉スポーツコミッショん」設立趣意書を提出

#### 4) 総括

2023年、野沢スキークラブ創立100周年を契機に、野沢温泉スキークラブの持続的な成長と、地域スポーツコミュニケーション機能を持つ組織の設立の協議が開始された。野沢温泉村では、スキークラブをはじめ、多くの組織（㈱野沢温泉・野沢温泉スポーツサービス㈱・野沢温泉マウンテンリゾート観光局・野沢温泉旅館組合・野沢温泉商工会・野沢温泉イベント受入れ実行委員会、等）が民間主体で運営されており、それぞれの組織で関わる人物も重複している状況にある。

今年度の補助事業も民間主導で推進されてきたが、複数の民間主導組織が存在するがゆえに、どの組織が地域SCの機能を担うべきかについて様々な意見があがり、議論が長期化した。最終的には関係各組織を集約した協議会形式の会議体を「野沢温泉スポーツコミュニケーション（仮称）」とすることで村の内諾を得る結果となった。2025年3月30日の村長選挙が設立に向けたスケジュールに入り込んだこともあり、野沢温泉スポーツコミュニケーションの組織体としての体裁構築には、来年度まで時間を要する予定である。事務局業務は野沢温泉マウンテンリゾート観光局が一旦代行する。

2024-2025冬季シーズンの訪日スキー・スノーボード客の来訪者数は、積雪状況が良好なこともあり記録的な数値を残すものと予想されている。そのような状況下で、村内で宿泊施設の予約が取れない、夕食難民が発生する等、各地で取りざたされる「オーバーツーリズム」の現象が野沢温泉においても発生している。DMOとスポーツコミュニケーションが連動することによって、野沢温泉の観光戦略並びにスポーツツーリズム戦略が新たに構築されることを期待したい。

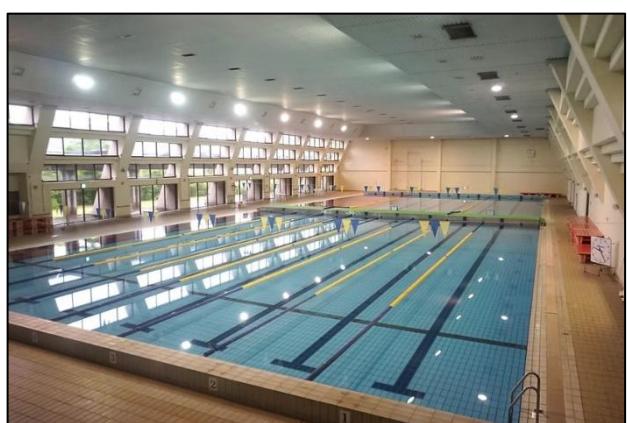
## 事例② 静岡県下田市

### 1) 自治体の概要

下田市は、静岡県の伊豆半島南端に位置する、人口約 19,000 人の港町である。市内には、白浜海水浴場や外浦海水浴場などの美しい海岸線が広がっている。米国からペリー提督が来航し、日米和親条約により日本で最初に開港した「開港のまち」としても知られている。市内に 10 の海水浴場を有し、そのうち 7 つがサーフポイントとしての顔を持ち、国内外から多くのサーファーたちが訪れている。2020 東京大会においては米国サーフィン競技のホストタウンとして登録された。また、サーフポイント以外にも、50m の市営温水プール（屋内）が市内に存在していることも特筆すべきスポーツ資源となっている。市のスポーツ行政は、教育委員会生涯学習課が所管。



市内のサーフポイント



敷根公園屋内温水プール

### 2) スポーツコミッショナの設立に至った経緯／設立目的

スポーツツーリズムから市民の健康増進まで、スポーツに関する行政課題は複雑化・多様化を極める一方、他自治体のように「スポーツ」を冠するセクションがない下田市では、現行の体制でこれ以上のスポーツ振興事業を積極的に推進することが困難な状況に陥っており、官民一体となって課題解決に取り組むための体制づくりが急務となっている。行政とスポーツ関係者の協働の場を設け、地域の課題感を共有しながらそれぞれの経験や知見を活かして課題解決に取り組むために、地域スポーツコミッショナを設立する。

2020 東京大会のサーフィン米国代表チーム誘致を目的として設立された「東京オリンピック・パラリンピックホストタウン下田市推進協議会」が推進する「下田市サーフタウン構想」とも連動した体制づくりを目指す。

### 3) 設立に向けた動き

日付	取組内容
2024年6月25日	<p>現地訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下田市における課題や今後の方向性をヒアリング</li> <li>・今後のスケジュールの確認</li> <li>・地域おこし協力隊との顔合わせ</li> </ul>
2024年7月18日	<p>打ち合わせ@SPORTEC</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東海大学押見先生の引き合わせ</li> <li>・市民アンケートと分析について打合せ</li> </ul>
2024年7月24日	<p>第1回スポーツ推進計画策定委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進計画概要</li> <li>・スポーツコミッショナの立上げについて</li> <li>・アンケート調査案の共有</li> <li>・スケジュールの共有 など</li> </ul>
2024年10月28日 ～10月29日	<p>事業作り合宿@熱海</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下田市より3名が参加</li> </ul>
2024年12月20日	<p>第2回スポーツ推進計画策定委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民アンケート結果と計画案について</li> <li>・スポーツコミッショナの立上げについて など</li> </ul>
2025年3月26日	<p>下田市スポーツコミッショナ設立会議</p> <p>第3回スポーツ推進計画策定委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度スポーツ庁予算について</li> <li>・令和7年度事業計画案及び収支予算案について</li> <li>・下田市スポーツ推進計画パブリックコメント結果について など</li> </ul>



#### 4) 総括

下田市は伊豆急下田駅が鉄路の終着点であるとともに始発点でもあることから、交通の要所としての重要性を持ち、観光地として発展を続けてきた。一方で、近年人口の減少とともに少子化・高齢化が急速に進んでおり、2022年に市内に4校あった中学校が統廃合され下田中学校の1校のみとなるなど、子どもたちを取り巻く環境も変化してきている。また、コロナ禍の余波やサーフィンを活かしたまちづくりに向けた機運の高まり、部活動の地域移行など、スポーツ関連の行政課題は複雑化・多様化が進み、課題解決のために行政のみに留まらない様々な関係団体同士の連携が必要となってきている。今回、官民一体となって課題解決に取り組む新たな組織体として、地域スポーツコミッショナの設立を目指した。

設立に向けては、行政、市内関係者、有識者により構成されたスポーツ推進計画策定委員会（兼地域SC立ち上げ準備会）にて、計画策定に向けた動きと平行して議論がすすめられた。市内競技団体へのヒアリングや住民アンケートを実施し、有識者と協力をして調査結果の分析を行うことで、関係者や利用者の声を反映させた組織事業作りを目指してきた。また、地域おこし協力隊を含む関係者3名で、スポーツ庁主催研修であった「事業作り合宿」に参加。次年度以降のコミッショナの事業について、活発な議論を行う姿が印象的であった。

2025年3月に「下田市SURF CITY構想」が策定され、サーフィンをまちづくりに活用する動きが並行してスタートしており、構想実現のための推進委員会の立上げも予定されている。情報発信や合宿大会誘致などに強みを持つコミッショナとの役割分担や組織的なポジショニングの整理を早期にすすめ、連動した推進体制が構築されることが望ましい。今後の動向に注目したい。

## 2. 経営多角化支援

### 事例① 一般社団法人笠間スポーツコミッショ (茨城県笠間市)

#### 1) 自治体の概要

笠間市は、茨城県の県央地域に位置する人口 7 万人の都市で、2006 年に旧笠間市と旧西茨城郡（友部町、岩間町）が合併して新制の笠間市として発足した。

全国一の栗の産地であり、日本最大規模の「御影石（稻田石）」の採掘場があることでも有名である。「笠間焼」や「笠間稻荷神社」など歴史・伝統文化が息づいている。岩間地区には、合氣道の創始者である植芝盛平によって創建された合氣神社があり、合氣道に関する唯一の神社とされている。また、市内に複数のゴルフ場があり、都内からも高速道路や JR 線でアクセス可能なため稼働率は高い。

年間 80 万人が訪れる大規模公園である笠間芸術の森公園に、スポーツ施設として全国屈指の規模のスケートパークが完成しており、アーバンスポーツによる誘客も目指す。スポーツ行政は教育委員会生涯学習課が所管。



スケートパーク全景



合氣神社

#### 2) スポーツコミッショの設立に至った経緯／設立目的

同市の主要な観光資源として笠間焼をはじめとする伝統・文化に関わるものが多いため、若年層への訴求がやや低い状況である。大型遊具を有する公園など、幼児・児童向けの施設は充実しているが、その上の若者世代向けの集客施設がなく、若者層の交流人口増加に課題があった。この対応として、現在では東京 2020 大会の日本代表選手の活躍により話題性も高い、スケートボードの競技施設に着目し「ムラサキパークかさま」の整備を行った。ハードの整備に併せ、ソフト部分を担う地域スポーツコミッショを設立し、施設整備効果を最大化することで「スケートボードの聖地」としての地位確立に向けた取組を展開している。また、地域に根付いているゴルフ、合氣道などの競技や、恵まれた自然環境を生かした アウトドアスポーツへ波及させ、大きな取組に育てていくことを目指している。2022 年 8 月に一般社団法人笠間スポーツコミッショとして独立した。

### 3) 経営多角化に向けた動き（補助事業内容）

#### ①スケートボード普及促進・茨城県知事杯スケートボード大会拡充事業

##### 1. スケートボード体験会の開催

目的：市民のパーク利用者増加、競技人口の増加

日程：6/22、11/16・23・30（計4回）

参加者：62名（4回合計）

##### 2. 茨城県知事杯スケートボード大会

目的：スケートボードの聖地の確立へ向けた、

大会の質・レベルの向上と全国への周知

日程：2024年11月2日

参加者：37名



#### ②武道ツーリズムのリニューアル・インバウンド促進事業

##### 武道ツーリズムモニターツアー（日帰り）

目的：武道ツーリズムに、合気神社や合気道体験を組み込むことにより、「笠間市＝合気道の聖地」の認知度を向上させる。笠間市の歴史や文化をPRするために、プロモーションビデオを制作する。また、日本語の他に、英語と中国語に対応（字幕）したものを制作することにより、インバウンドの誘客にも活用する。

日程：2025年1月25日

参加者：11名

旅行代金：12,000円／ひとり



#### ③BREAKIN' BATTLE KASAMA 舞闘炎拡充・ブレイキン普及促進事業

##### 1. BREIKIN BATTLE KASAMA 舞闘炎の開催

目的：2023年に開催したブレイキン大会について、部門の見直しを軸に、より多くのダンサーが参加しやすいような大会に拡充することにより、大会の認知度を向上させる。また、市内の大型商業施設でPRイベントを開催することにより、大会の存在を知ってもらうと同時に、ブレイキンの魅力を身近に感じてもらう。

日程：2024年10月20日

参加者：379名（観客数1,200名）

##### 2. 市内小学校ブレイキン出前授業の開催

日程：6/24、7/1、10/7（各日2回×3校＝全6回）

参加者：137名（市内小学校3校）

#### 4) 総括

2021年3月にオープンした「ムラサキパークかさま」は、オープン直後より Tokyo2020 のフランス代表チーム事前キャンプやスケートボード日本選手権の誘致に成功し、国内最大級のスケートパークとして知られているが、近年利用者数が伸び悩んでいる。元々少ない競技人口に加え、首都圏に新たなスケートボードパーク施設（公共・民間共）が誕生しており、90%が県外からの来場者である笠間のスケートパーク利用者の減少につながっている。今年度はこの状況を打破すべく、市内での競技人口を拡大するための事業を複数行った。

スケートボード体験会においては、実施回数を増やし、より多くの市民にスケートボードを体験してもらう機会を提供した。また茨城県知事杯スケートボード大会では、習得技術のレベルごとに部門を分け、初心者でも参加しやすい大会作りを目指した。また、アーバンスポーツの展開として競技人口・愛好者が多いダンススポーツ（ブレイキン）に注力し、市内小学校での出前授業を行った。昨年度より開催している BRAKIN' BATTLE KASAMA 舞闘炎には目標を上回る参加者が集まる結果となり、ブレイキンは今後に向かた有望市場であると考えられる。また、今年度は武道ツーリズムのツアー造成に取り組み、モニターツアーを実施した。当初は民泊の利用や現地まで旅費負担による1泊2日のツアーを予定していたが、定員に達しなかったため、日帰りの日程に変更を行った。今後、ツーリズム商品として販売までつなげるためには、企画、行程、告知方法、価格設定等について、さらなる協議が必要であろう。

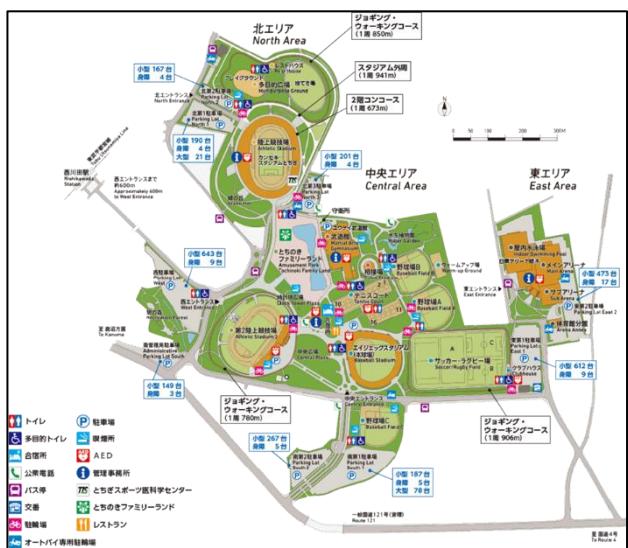
笠間スポーツコミッショնは行政内事務局として設立し、一般社団法人として独立したスポーツコミッショնである。任意団体として立ち上げた後の法人化は、多くの自治体が目指すシナリオであるが、実現できている団体は少ない。今後は法人化した強みも活かしながら、アーバンスポーツを基軸にした新たな収益事業の創出に向けた取組を期待したい。

## 事例② 栃木県スポーツコミッショナ (栃木県)

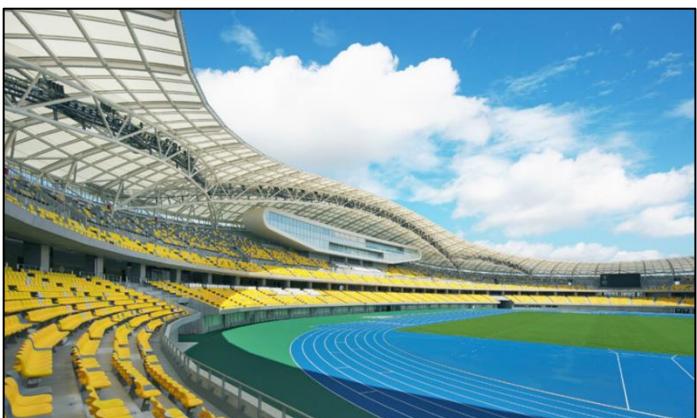
## 1) 自治体の概要

栃木県は北関東の中央部に位置し、14市11町で構成されている。人口は約187万人で、県庁所在地である宇都宮市に県全体の人口の4分の1に当たる約50万人が集中している。観光地や温泉地が多いことでも知られ、日光・鬼怒川温泉や那須塩原エリアなど有名である。スポーツ施設としては、栃木県総合運動公園が代表的で、カンセキスタジアムとちぎ（陸上競技場兼サッカー場）では2022年いちご一會とちぎ国体の開会式並びに閉会式が行われた。また、冬のシーズンにおいてスキーやスノーボードが楽しめる自然環境にも恵まれている。

県内のトップスポーツチームには、栃木SC・栃木シティFC（サッカー/J3リーグ）や宇都宮ブレックス（バスケットボール・3人制バスケットボール/B1リーグ）、H.C.栃木日光アイスバックス（アイスホッケー/アジアリーグアイスホッケー）、宇都宮ブリッツエン（サイクルロードレース/JBCF、JCLリーグ）、栃木ゴールデンブレーブス（野球/ルートインBCリーグ）があり、地域スポーツの発展に寄与している。スポーツ行政は、栃木県生活文化スポーツ部スポーツ振興課が所管。



## 栃木県総合運動公園



## カンセキスタジアムとちぎ

## 2) スポーツコミッショングの設立経緯／設立目的

2022年にいちご一会とちぎ国体・とちぎ大会が開催されたことを契機として創り出された様々なレガシーを継承していくことを目的に、2023年3月「とちぎスポーツの活用による地域活性化推進戦略」が策定された。本推進戦略では、スポーツ大会・合宿等の誘致やスポーツと組み合わせた観光・地域づくりなどのスポーツツーリズムを推進し、県内外の交流人口の拡大を通じた地域活性化につなげていく方針が打ち出されており、その推進組織として、2023年7月に栃木県スポーツコミッショングが設立された。

### 3) 経営多角化に向けた動き（補助事業内容）

#### ①とちぎのスポーツ・文化・歴史を活かした武道ツーリズムの推進

栃木県における武道ツーリズムの推進に向け、2回の勉強会、モニターツアー、アンケート、報告会を実施した。

##### 1. 勉強会

###### 第1回 勉強会（モニターツアーの実施について）

日程：2024年5月27日／参加者：10団体20名

###### 第2回 勉強会（行程、募集方法等の素案提示）

日程：2024年7月31日／参加者：18団体32名

##### 2. モニターツアー実施

日程：2024年10月29日～31日（2泊3日）

申込者：59名

参加者：20名（一般参加者12名、招聘者8名）



##### 3. モニターツアー報告会

日程：2025年2月13日／参加者：20団体37名

#### 4) 総括

栃木県スポーツコミッショナは、2022年にいちごー会とちぎ国体・とちぎ大会が開催されたことを契機に、スポーツを活用した地域活性化等の具体的な取組を推進していく組織として2023年7月に設立された。設立初年度である2023年度に新たなテーマ別スポーツツーリズムの検討会を開催し、栃木県はスポーツ・観光の施設・資源や競技力が充実しており武道ツーリズムの推進が期待できるとして、半年間をかけて、武道ツーリズムの推進に向けた基本的考え方、解決すべき課題、県の役割などの整理を行った。検討会を経てまとめられた「栃木県テーマ別スポーツツーリズム検討報告書」の内容を踏まえ、武道ツーリズムの推進に向け、今年度事業では、関係者による勉強会並びに在日外国人をターゲットにしたモニターツアーの実施を行った。

モニターツアー運営事業者は公募型プロポーザルにより選定し、大手旅行会社が受託をした。栃木県内の新たな価値や関係者の発掘も狙いのひとつとした点が特徴的な提案であり、ストーリー上、既に外国人旅行者にとって人気の観光地として知られる日光を含まないツアー内容となった。2泊3日のモニターツアーは、弓道体験、茶道体験、坐禅体験の3つの体験プログラムを含み、また歴史学者の講話も含めた大変充実した内容となった。中でも2日目の弓道体験は、栃木県弓道連盟の全面的な協力のもと実施され、本来であれば実際に弓を射るまでに3か月は要するところを、4時間の体験プログラムの中で的に弓を当てることができるまでに指導をいただいた。武道ツーリズムの推進には武道関係者とのすり合わせや連携に苦労することが多い中で、栃木県弓道連盟と強固な協力体制を築き、参加者満足度の非常に高い体験プログラムを作り上げたことは高く評価できる。

今回のモニターツアーは完成度が高く、関係者の意識啓発、理解促進、機運醸成につながる取組であったと言える。来年度事業では、今年度の取組をより具体化していくために、ツーリズム商品造成に繋がる受入態勢の整備に向けたサポート事業を、武道関係者、行政（市町、観光協会、DMO）、民間（旅行、観光）等に向けて行うこととしている。栃木県内の地域資源の棚卸が促進され、武道ツーリズムの商品化に向けた取組が推進されていくことを期待したい。

### 事例③ 那須塩原スポーツコミッショナ（栃木県那須塩原市）

#### 1) 自治体の概要

那須塩原市は、栃木県北部に位置し、人口約 11 万人を有している。市内には、温泉地として知られる塩原温泉郷や、自然豊かな景勝地が点在している。交通アクセスが良好で、東北新幹線の那須塩原駅が所在し、首都圏や東北地方への移動が容易であるという特徴がある。酪農が盛んで、生乳産出額は全国 2 位であり、乳製品のお土産も多く世界的に評価されるチーズ工房がある。

2020 東京五輪においては、オーストラリア共和国のホストタウンとしてトライアスロン選手団の事前キャンプを受け入れた。また、国体時に会場として使用した栃木県内で最大規模の面数を誇るテニスコートや人工芝のコートが 3 面のサッカー場といったスポーツ施設が整備されている。



人工芝 20 面のテニスコート



生乳産出額は全国 2 位



#### 2) スポーツコミッショナの設立経緯／設立目的

東京 2020 オリンピック・パラリンピックや 2022 いちご一會とちぎ国体・とちぎ大会の開催によって、市民のスポーツに対する関心の高まりと培ったおもてなしをレガシーとして継承し、スポーツツーリズムによる交流人口の拡大を目指すとともに、スポーツによる地域づくりを一元的に実施するため、スポーツ団体、観光団体、経済団体、医療機関、教育機関等が連携する組織として、2023 年 9 月に「那須塩原スポーツコミッショナ」を設立した。那須塩原スポーツコミッショナの事務局は、産業観光部ツーリズム推進課が所管している。

### 3) 経営多角化に向けた動き（補助事業内容）

#### ①合宿の誘致・支援業務（那須塩原市スポーツツーリズムモデル構築業務）

スポーツツーリズム推進のための調査事業として硬式テニスのモニターツアーを実施。効果的な事業になるよう、業者選定にプロポーザル方式を採用。地元の競技団体である那須塩原テニス協会の協力のもと、観光志向が高く観光消費が期待でき、かつ宿泊施設や体育施設に比較的空きがある平日の利用が見込まれるシニア層をターゲットとした。

#### ◆モニターツアースケジュール

- ・ 12月4日（水）
  - 11：15～12：30 千本松牧場見学・昼食
  - 13：00～15：30 石川スポーツグラウンドくろいそで練習
  - 16：15～17：15 湯っ歩の里体験・竹取物語ライトアップ見学
  - 17：20 宿泊施設チェックイン（塩原温泉：上会津屋）
- ・ 12月5日（木）
  - 9：30～10：00 天皇の間記念公園見学
  - 10：15～10：50 もみじ谷大吊橋見学
  - 11：00～12：15 昼食・休憩
  - 13：00～16：15 石川スポーツグラウンドくろいそで那須塩原テニス協会と合同練習（親善試合）
  - 17：00 宿泊施設チェックイン（西那須野：乃木温泉ホテル）
- ・ 12月6日（金）
  - 8：50～12：15 石川スポーツグラウンドくろいそで那須塩原テニス協会と合同練習（親善試合）
  - 12：30～14：00 道の駅明治の森黒磯で那須塩原テニス協会と食事会  
日本遺産見学
  - 14：00 解散

#### ◆モニターツアーの様子



#### 4) 総括

那須塩原スポーツコミッショնは、東京 2020 オリンピック・パラリンピックにおけるオーストラリア共和国のホストタウンとしての関わりや、2022 いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催を通じて蓄積された経験をレガシーとして継承し、スポーツツーリズムによる交流人口の拡大を目指し、スポーツによる地域づくりを一元的に実施する組織として設立された。スポーツ合宿の誘致、大規模スポーツ大会等の誘致及び開催支援、新たなスポーツツーリズムの開発、戦略的なプロモーション活動、の 4 つの取組を軸に事業を開展している。

今令和 6 年度事業では、持続可能なスポーツツーリズム推進のための調査事業としてモニターツアーを実施した。国体のテニス競技（ソフトテニス）の会場にもなった「石川スポーツグラウンドくろいそ」は合計 20 面のテニスコートを有しております、国体を機に整備した同施設の利用増加を目的にツーリズムコンテンツの開発を行った。ユニークであったのは、観光志向が高く観光消費が期待でき、かつ宿泊施設や体育施設に利用者の少ない平日の施設利用が見込まれるシニア層をターゲットとした点である。地元の競技団体である那須塩原テニス協会の協力により、モニターツアー参加者と地元競技者の合同練習会や交流会を実施した点にも工夫が見られた。低単価になってしまいがちなスポーツ合宿の宿泊費の水準を、ターゲットを首都圏のシニアとして通常どおりに維持し、宿泊施設にとっても価値のある取組となったことは高く評価したい。

那須塩原スポーツコミッショնは設立から 2 年目を迎える、これから主たる事業を定めていくタイミングにある。今回のモニターツアーの会場になった 20 面のテニスコートはもちろん、豊かな自然資源も活用しながらの取組が促進されていくことが望ましい。今後の新たな体制構築に期待したい。

## 事例④ 久喜スポーツコミッショナ (埼玉県久喜市)

### 1) 自治体の概要

久喜市は埼玉県の東北部に位置しており、市内に 2 つの高速道路インターチェンジ、3 路線が通り 5 つの鉄道駅を有する広域的な交通利便性に恵まれた人口約 15 万人の都市である。特に、久喜市総合運動公園は東北縦貫自動車道の久喜インターチェンジから 1 分の好立地にあり、市内外から利用者が集まる。毎年 3 月には久喜マラソン大会（ハーフ）が開催され、市内在住の「くき親善大使」であるプロランナーの川内優輝氏や才木才木玲佳氏がゲストランナーを務めている。

久喜市では今後の更なる来訪客の増加を目指し、総合運動公園の基本計画の見直しを進めており、要望の多いスケートボードパークや、市内の高校生が日本一になるなど活発に競技が行われている 3x3 バスケットボールコートなどの整備が「アーバンスポーツエリア」として決定している。また、2023 年 1 月には 3x3 バスケットボールのプロチームである「SAITAMA WILDBEARS」のホームタウンとなり、バスケットボールコートの監修やプロリーグの試合誘致などを実施している。スポーツ行政は健康スポーツ部スポーツ振興課が所管。



総合運動公園鳥瞰図（中央付近がアーバンスポーツエリア）

### 2) スポーツコミッショナの設立経緯／設立目的

第 2 次久喜市総合振興計画の前期計画（令和 5～9 年度）の「2-2 スポーツを通じて健康で幸せに暮らせる環境をつくる」において、(1) スポーツ・レクリエーションに親しむ機会や環境を整えます、(2) スポーツ・レクリエーションを通じて交流を促進し人材を育成します、(3) 「健幸（けんこう）・スポーツ都市」としてのブランド力を高めます、を位置づけている。(1) では専用スポーツ施設の整備、(2) ではスポーツ団体の支援、(3) では注目度の高いスポーツ大会・イベントの開催を謳っており、これらを実現するために地域スポーツコミッショナの設立が不可欠と考え、2024 年 3 月に久喜スポーツコミッショナを設立するに至った。

### 3) 経営多角化に向けた動き（補助事業内容）

#### ①3人制バスケットボール「3×3」を活用したスポーツ・プロモーション

##### 1. 市内外の小学生を対象とした3×3体験イベントの開催

参加チームを市外チームまで拡大して実施。

日程：2024年7月21日

参加者：91チーム364名（前年比2倍）、

その他来場者を含めて合計800名。



##### 2. 市内外の中高生を対象とした3×3体験＆トーナメント大会の開催

部活動地域移行を鑑み、参加対象を中高の部活動からクラブチームに拡大して実施。

参加者：137チーム548名、その他来場者含め合計900名

##### 3. 商業施設を活用した市内高校生による3×3大会の開催（モラージュ菖蒲）

日程：2024年10月19日

参加者：来場者約1,000名（前年比1.3倍）

##### 4. プロリーグ「3XS（トライクロス）」の誘致およびマルシェとの連携

日程：2024年12月7日-8日

参加者：プロ12チーム+来場者約1,000名

##### 5. 各種イベント時における3×3体験ブースの設置

11/14 彩の国フェア（埼玉県主催、アリオ鶴宮）体験ブースに98名来場

12/07-08 3XSトライクロスのPR

11/23 久喜マルシェ（市民団体主催）体験ブースに200名来場

11/24 健幸・スポーツフェスタKUKI in アリオ鶴宮 体験イベントに500名来場

12/22 健幸・スポーツフェスタKUKIのPR

##### 6. 「埼玉ワイルドベアーズ」による市内小学生へのバスケットボール出前講座



## ②デジタルスポーツマシンを活用した認知症・フレイル予防プログラムの構築および多世代コミュニティの構築

### 1. イベント時のデジタルスポーツマシン出展

7/21 3x3 小学生大会に体験ブースを設置

11/23 久喜マルシェにて体験ブースを設置

11/24 「健幸・スポーツフェスタ KUKI in アリオ鷺宮」にて体験ブースを設置

### 2. 要介護者へのフレイル予防プログラムをカスタマイズして実証実験

同じ商業施設に入居している介護施設と連携。先行して 6 月から 10 月の間で約 100 名を対象に実証実験を展開。

### 3. フレイル予備軍へのフレイル予防プログラム実証実験

参加者：延べ 225 人



## ③3x3、デジタルスポーツマシンを中心とした総合的なスポーツイベントの開催及び大規模スポーツイベントの誘致

### 1. 12/22 健幸・スポーツフェスタ KUKI

約 20 のスポーツコンテンツと 7 つの健康ブースを展開。1 ヶ月前にはプレイベントとして常設のデジタルスポーツマシンのある商業施設アリオ鷺宮にて「健幸・スポーツフェスタ in アリオ鷺宮」を開催。

日程：2024 年 12 月 22 日

参加者：延べ 3,000 名

### 2. スペシャルオリンピックス日本・埼玉によるスポーツイベント誘致

フロアボール、卓球、バスケットボールの 3 競技において、障がい者と健常者が同じチームで楽しむイベントを実施。

参加者：6 月 選手 100 名、関係者 100 名（フロアボール）

9 月 選手 100 名、関係者 50 名（卓球）

11 月 選手 100 名、関係者 100 名（バスケットボール）

### 3. 12/07・08 プロチーム「埼玉ワイルドベアーズ」所属のリーグ戦誘致

関東近郊 12 チームが所属する 3x3 プロリーグ「3XS（トライクロス）」を誘致。

来場者数：約 1,000 名

#### 4) 総括

昨年度設立を迎えた久喜スポーツコミッションでは、久喜市を本拠地に活動する 3×3 プロチーム「埼玉ワイルドベアーズ」との連携、並びに、デジタルスポーツマシンを活用する取組をすすめることを軸に 2024 年度事業を行った。

県立久喜高等学校の女子バスケットボール部が、3×3 種目において 2020 年・2022 年に全国優勝したことも追い風となり、3 人制バスケットボールは地域の有力競技として注目を集めている。「3×3 バスケットボールのまち」を目指し、次世代につながる小中高生を巻き込んだ事業として効果を発揮している。特に、小中高生を対象とした 3×3 体験イベントの実施や商工会との連携による各イベントでのマルシェ拡大を図った事業は参加者数が拡大し成果をあげている。

もうひとつの強みであるデジタルスポーツマシンを活用した事業は、イベント等に持ち出せるスポーツコンテンツであり、高齢者層のフレイル予防及び若年層のスポーツへの関心を掻き立てることに効果を発揮している。デジタルスポーツマシン開発会社であるエアデジタル社は久喜スポーツコミッションの構成メンバーであり、エディオンピースティング広島での「体験型デジタル PK シミュレーター」やエスコンフィールド北海道内「次世代野球システム」の開発を手掛けている。

久喜市は首都圏からの日帰り圏にあるだけに、宿泊需要に課題はあるものの、「3×3 バスケットボール」「デジタルスポーツマシン活用」の 2 つの特色を活かすスポーツコミッションとしての展開を今後も期待したい。

## 事例⑤ 金沢文化スポーツコミッショナ（石川県金沢市）

### 1) 自治体の概要

金沢市は人口約45万人の中核市、かつ石川県の県庁所在地である。同県のほぼ中央に位置し、北部は金沢平野を経て日本海、南部は山地が占め、豊かな自然環境に恵まれている。また、加賀百万石、加賀藩前田家の城下町として栄え、加賀友禅、金沢箔、九谷焼といった工芸、能楽や加賀万歳などの芸能が伝統として受け継がれてきた。戦災を免れてきたため、藩政時代からの美しい町並みを今に残す歴史のまちでもある。

主なスポーツ施設としては、固定席と可動席で5,000席を備えるメインアリーナを中心としてサブアリーナ、プールなどを備えるいしかわ総合スポーツセンター（県立）と、野球独立リーグのチームのホーム球場である金沢市民野球場、50m・25m・飛び込みの3つのプールを備えた金沢プール、Jリーグチームのホームスタジアムである金沢スタジアム（2024年2月開場）などが整備されている金沢城北市民運動公園の2つの大規模施設群を有している。スポーツ行政は文化スポーツ局スポーツ振興課が所管。



ひがし茶屋街



金沢プール（50m）

### 2) スポーツコミッショナの設立経緯／設立目的

2015年3月の北陸新幹線金沢駅開業以来、金沢周辺への観光客は増加を続け、これに応じて宿泊施設の建設も計画されていたが、需給予測では供給が上回っていた。他方、金沢への訪問は文化を中心とした観光やビジネスが主な目的であったことから、供給をカバーするためのスポーツを活用した誘客の必要性が出てきた。こうした背景を受け、2018年4月に「金沢市スポーツ文化推進条例」が制定され、同年7月に条例の推進役（スポーツツーリズム）として金沢文化スポーツコミッショナが設立された。主な目的は、文化とスポーツを通じてシティプロモーションを推進すること、地域社会・経済の活性化を図ること、文化とスポーツの振興を図ることである。

### 3) 経営多角化に向けた動き（補助事業内容）

#### ① 能登半島地震 スポーツ復興対策事業

##### 1. 復興セールス

- ・9/26～29 ツーリズム EXPO JAPAN 出展（東京）

- ・各競技団体への復興セールス

##### 2. モルック震災復興ななおオープン開催

＜スポーツの力で能登を元気に！＞

- ・被災地の七尾市で開催

　　主催：金沢市、七尾市、

　　金沢文化スポーツコミッショナ

　　共催：スポーツコミッショナかほく

　　宝達スポーツ文化コミッショナ

　　参加者：231 チーム 934 人

　　申込開始 4 日目で定員達する

- ・大会参加のための初心者教室の開催

- ・モルック世界大会（函館市）運営視察

- ・モルック世界大会の金沢誘致



#### ② 人材育成＝スポーツコミッショナ×地元競技団体×民間活力

##### 1. 合宿誘致ステップアップ事業

- ・国内旅行会社対象ファムトリップの実施　　参加者 8 社 10 人

- ・金沢らしい合宿プログラム（文化体験等）造成委託

　　誘致旅行業者 1 件

　　合宿を主催する地元チーム 2 件

##### 2. 全国大会スタートアップ支援事業

- ・地元競技団体現況調査

- ・加賀百万石ツーデーウォーク運営支援

##### 3. 全国大会から金沢オープンへモデルプログラム造成

- ・誘致全国大会を地元主催の大会につなげる取組事例

　　マスターズ水泳/フライングディスク

##### 4. スポーツコミッショナ間連携強化

- ・さっぽろグローバル SC/東北海道 SC/スポーツ観光おおさき/土佐町 SC 訪問、情報交換

- ・9/19-20 地域スポーツコミッショナ協議会（沖縄市）

- ・1/28 地域スポーツコミッショナシンポジウム（東京）

##### 5. 誘致担当職員スキルアップ

#### 4) 総括

金沢文化スポーツコミッショնは、2018年7月の設立以来、民間人財の登用を積極的に行い、金沢が持つ文化観光資源とスポーツイベント（大会・合宿）を融合することで、金沢らしいスポーツツーリズムを推進してきた。2024年元旦に発生した能登半島地震後は、金沢のスポーツ施設が避難所となつたことなどにより大会・合宿の受入れが難しくなつたが、風評被害を払拭するためEXPO出展等の復興セールを行つた。

2024年11月にはスポーツの力で能登を元氣にするため、自治体の枠を越えた被災地の七尾市で「モルック震災復興ななおオープン」を開催した。金沢文化スポーツコミッションとモルック競技の縁は2023年5月にモルック日本オープン大会を金沢へ誘致したことから始まるが、レクリエーションスポーツであるモルック競技をマルシェと合わせて開催したことにより、被災地への経済波及効果を考慮した復興事業であった。2024年8月に日本（北海道函館市）で初めて開催された「モルック世界大会」（15ヶ国・地域672チーム、約3,350人参加）にも金沢文化スポーツコミッションは協力しており、将来的に金沢市に世界大会を誘致するセールスの機会と捉えている。

このほか、以前は大会誘致をメインに取り組んできたが、2023年度より金沢市観光政策課から合宿誘致補助金制度の窓口を引き継ぎ、合宿誘致にも積極的に取り組んでいる。引き継いだ制度を単なる宿泊補助金とせず、スポーツ施設指定管理者、地元競技団体、旅行会社を巻き込むことによって、外部の営業力をうまく活用し成果につなげている。

また、復興にむけてスポーツの役割を認識し、能登の子供たちのスポーツ活動を支援するプロジェクトを任意で立ち上げ、活動資金の募金協力を呼びかけるとともに、スポーツコミッショն同士のネットワークを活用し、スポーツをする機会を逸した子供たちの受入れを各地域で実現させてきた。

金沢文化スポーツコミッションの取組事例は、特にツーリズム型の地域スポーツコミッションおよびこれから地域スポーツコミッションを形成しようとする自治体・地域の参考となっており、今後の新たな取組が注目される。

## 事例⑥ 荘崎市スポーツコミッショ (山梨県莊崎市)

### 1) 自治体の概要

莊崎市は山梨県の中北地域、中央部甲府盆地の北西に位置し、人口は約 2 万 8,000 人、甲斐市、南アルプス市、北杜市に囲まれ、甲府市の西、約 10km に位置している。甲斐武田氏の発祥・終焉の地である「武田の里」として知られる一方、優位な交通条件を活かした工業団地の整備・企業誘致などにより先端技術産業の立地が進み、県内有数の製造品出荷額を誇る先端工業都市となっている。

莊崎市は「サッカーのまち」としても知られ、全国サッカー選手権大会で 3 度の準優勝を誇り多数の J リーガーも輩出する県立莊崎高校が存在する他、ヴァンフォーレ甲府のホームタウンとして天然芝グラウンドの優先的な使用を認めるなど、市をあげてサッカーを通じた地域活性化に取り組んでいる。スポーツ行政は教育委員会教育課スポーツ振興担当が所管。



市内から望む富士山



天然芝フィールド

### 2) スポーツコミッショの設立経緯／設立目的

少子高齢化に基づく人口減少の影響により、地域スポーツ振興組織における担い手や地域におけるスポーツ実施人口が減少している。この現状を開拓するため、莊崎市体育協会、莊崎市スポーツ少年団本部、地域部活動制度の統括組織を含めた地域スポーツ振興組織の司令塔となる存在として 2022 年 3 月に莊崎市スポーツコミッショを設立した。人口減少やスポーツ人口の減少、地域スポーツの担い手不足などの地域課題を解決し、併せて、スポーツを通じた市民の健康増進、ウェルネスの推進、地域の活性化を目指す。

### 3) 経営多角化に向けた動き（補助事業内容）

#### ① 経営多角化に向けた事業計画の策定（既存計画の改定等を含む）

アウター向けスポーツイベントの効果検証や、スポーツ合宿の受入の試行的実施によるニーズ等を把握した上で、地域資源を有効活用し、スポーツを通じた関係人口拡大による地方創生の推進を図るため、令和7年3月にスポーツツーリズム推進計画を策定した。

#### ② 官民学連携によるイベント企画・実施

当初の計画では昨年度開催した「ニラリンピック 2024」を民間が主催し、SCが後方支援することとしていたが、400mハードル日本記録保持者の為末大氏を含めて事業の再検討を行い、建築関係のコミュニティを活かした100人規模のDIYイベントを開催した。

##### 【ハードル再生プロジェクト～みんなでハードルをリノベしよう！～】

日時：2024年9月28日（土）10:00～14:00

場所：韮崎中央公園陸上競技場

主催：AMERICAYA DIY SERVICE CENTER

内容：壊れたハードルを為末大氏と一緒にリノベーションし、再活用するイベント

参加料：1,000円

参加：100名（市内84名、市外14名、県外2名）

北西陸上クラブ、韮崎西中学校陸上部、韮崎高校陸上部、山梨大学陸上部



#### ③ スポーツイベント参加型宿泊者支援の試行的実施

韮崎市出身プロトレイルランナー山本健一氏がプロデュースする山の日（8月11日）に開催するトレイルランニングイベント「ヤマケンカップ」の開催に合わせて、宿泊者のニーズや消費支出額などを調査し、今度の取り組みの基礎資料とするため、市内ゲストハウスと連携し、市スポーツイベント参加者に対する宿泊支援を実施した。

2024年4月24日 企画経営委員会においてモニタリング業務委託について説明

2024年5月20日～7月11日 宿泊プラン募集

2024年8月10日～11日 宿泊プラン提供

2024年8月19日～28日 アンケート調査実施

2024年8月28日～9月16日 アンケート集計・分析

2025年1月16日 スポーツコミュニケーション企画経営委員会においてアンケート調査結果報告

#### ④地域外からの通年型の誘客拡大を図るアウター施策

##### 1. スポコミ×スポコメどろんこ綱引き大会（補助対象外）

「スポーツ」×「農業」の取り組みとして、田んぼ綱引きと田んぼフラッグを実施。

2024年5月19日／参加者：70名（12チーム）

##### 2. ホサカ24耐 Hosaka24-hour EnduranceRun

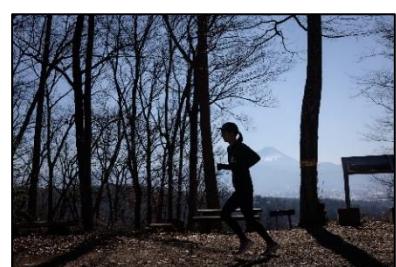
1周5kmのサンライズヒル穂坂トレイルランニングコースを個人又はチームで24時間走り、周回数を競う24時間耐久のトレイルランニングイベント。

2024年5月25日～26日／参加者：71名（市内4名、県内17名、県外50名）

##### 3. エンジョイ3.5時間耐久・トレイルランニングリレー大会 inサンライズヒル・穂坂

8月開催の「サンライズヒル・穂坂 ヤマケンカップ」の冬季バージョン。

2025年1月26日／参加者：45チーム 174名



#### ⑤地域内におけるインナー向けスポーツイベントの実施

##### 1. スポコミトレラン教室

小学校高学年を対象として、学校教育の一環としてトレイルランニング教室を開催。

2024年11月13日／参加者：穂坂小学校5年生11名、6年生9名

##### 2. ゆるスポーツフェスタ＆マルシェ2024

だれもが楽しめる新たなスポーツ「ゆるスポーツ」を10種目取り入れた県内初のゆるスポーツイベントとキッチンカーマルシェを開催。

2024年11月23日／参加者：498名（ゆるスポのみ集計）



##### 3. 幸福の小径ミニ駅伝2024

韮崎市出身のノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智博士が中学時代に歩いた通学路である「幸福の小径」において、駅伝競走を開催。

2024年12月30日／参加者：132名（チームの部28チーム124名 個人の部8名）

#### 4) 総括

韮崎市スポーツコミッショニは、多様なステークホルダーの参画・連携により、アウター施策だけではなくインナー施策の推進にも取り組み、少子高齢化による人口減少やスポーツ人口の減少、地域スポーツの担い手不足などの地域課題の解決や、スポーツを通じた市民の健康増進、ウェルネスの推進を目指すスポーツ振興組織の司令塔組織として 2022 年 3 月に設立された。2022 年度（1 年目）の活動では、地域資源である山岳資源を活用し、韮崎市ではスポーツイベントがなかった冬季にトレイルランニング大会を開催するなど、これまでにない取組をスタートさせた。2023 年度（2 年目）は、より市民にコミッショニの存在や活動を周知するべく、複数の事業に取り組んできた。

設立当初の計画では 2025 年度に事務局を市から独立させる方針となっており、方針通りにいけば独立前の最終年度となる中で、2024 年度はその道筋や可能性を模索しながら事業を取り組んだ。その中で、昨年度実施した「ニラリンピック 2023」の後継イベントとなった「ハドール再生プロジェクト」は特徴的な取組となった。当初の計画では、昨年度の補助事業として実施し、参加者だけで 457 名を集客した「ニラリンピック 2023」を民間が引継いで主催し、SC が後方支援することとしていた。民間事業者、大学、SC が協働し、「ニラリンピック 2024」の実施に向けて検討を行ってきたが、主催となる民間事業者のマンパワー不足を背景に昨年規模での開催が困難となり、100 人規模の DIY イベント「ハドール再生プロジェクト」に変更しての開催が決まった。昨年に続き為末大氏をゲストに迎えて実施したイベントは盛況のうちに終了し、多くのメディアに取り上げられた。また、補助事業を活用し SC 主催で企画・開催したイベントが、翌年度民間主催イベントとして引き継がれたことは非常に意義深いことであった。一方で、初年度に補助金を活用したイベントを民間が主体となり持続していくためには、必要経費の見直しやスポンサー収入の拡大を含め、行政の財政的支援、人的支援が引き続き必要であるという現実も明らかになった。

韮崎市スポーツコミッショニは、次年度以降の方針として、市からの独立を見送り、予算を縮小して団体を継続することを決定している。背景には、3 年間の取組みの中で、団体の自走化を支える収益源を確立することができなかったことがあるが、これは韮崎市だけでなく全国のコミッショニが直面している課題である。一方で、3 年間の様々なトライ & エラーやイベント開催によって、韮崎市スポーツコミッショニの構成団体の結束は強く、関わってきたメンバーの多くが団体継続の意思を持っている点は高く評価したい。また、事業の後継を担う地域おこし協力隊を採用するなど、明るい材料も見受けられる。スポーツコミッショニが持つ地域の関係者をつなぐ「ハブ」としての機能を、設立 3 年で確立した求心力と推進力を活かし、今後の新たな体制の構築に期待したい。

## 事例⑦ 西尾市観光・スポーツ・文化共創協議会（愛知県西尾市）

### 1) 自治体の概要

西尾市は、愛知県の中央を北から南へ流れる矢作川流域の南端に位置し、東に三ヶ根山などの山々が連なり、西に矢作川が流れ、南は三河湾を臨む。1953年に市制を施行し、西三河南部地域の中核的な都市として自動車関連産業の発展とともに成長を続けてきた。一方で日本有数の生産量を誇る抹茶（てん茶）やカーネーション、養殖ウナギ、アサリなど農水産物の生産拠点としても発展している。現在の市域は、2011年4月に西尾市が一色町・吉良町・幡豆町を編入合併した。歴史的な史跡や名所が点在し、伝統的な祭りや芸能も多く伝えられているほか、三ヶ根山や三河湾に浮かぶ佐久島を含む一帯は三河湾国定公園に指定され、風光明媚な名勝となっている。

スポーツ施設は合併前の各自治体が所有していた施設が老朽化していることもあり、スポーツ施設のストック適正化が図られようとしている。



西尾城（歴史公園内）



### 2) スポーツコミッショナの設立に至った経緯／設立目的

2021年4月に「スポーツで元気になるまち西尾」を目指しスポーツ都市宣言を表明。同時に第1回にしおマラソン、西尾健康ツーリズム、デンソーエアリービーズ（女子バレーボールチーム、SVリーグ所属）とのホームタウンパートナー協定を核としたまちづくりが評価され「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰2021」を授賞した。

2023年6月、観光協会・スポーツ協会・文化協会が連携することでそれぞれの事業の誘客を支援し活動の活性化を図るとともに、新たな誘客魅力を創出する事業を展開し、西尾市の活性化を推進する目的でスポーツコミッショナを設立した。事務局は西尾市スポーツ協会が所管している。

### 3) 経営多角化に向けた動き（補助事業内容）

#### ①ロゲイニング大会

新たな観光誘致戦略のひとつとして実施。

#### ②おかしなマラソン大会

制限時間内に 1 周 1.6km のコースを周回した回数とお菓子を食べた店舗数を足した数を競う大会。複数のメンバーがリレー形式で走り、チームの得点で順位を決定。

日程：2025年3月16日

参加者：100チーム 479人



#### ③ティラノサウルスレースの開催

「ティラノサウルス」の着ぐるみを着て走るイベント。日頃から運動をしていない人も含めて市外から幅広い層の誘客を図り、地域の活性化につなげることを目的に開催。

日程：2024年10月20日



#### ④トップアスリート講演会の開催

第3回にしおマラソン大会の気運を高めるために、女子長距離界のレジェンドである「野口みづき氏」「千葉真子氏」を講師に招き講演会を開催。

日程：2025年1月19日

参加者：365名

#### ⑤スポーツボランティア組織の設立

スポーツボランティアの登録・組織化を図るために、ボランティア専用サイトの立上げを行った。スポーツボランティアを軸に専用サイトの立ち上げを予定していたが、地域SCである「西尾市観光・スポーツ・文化共創協議会」として運用できるよう観光・文化に関するボランティア募集もできるようにした。

#### 4) 総括

スポーツコミッショナとしての組織体は 2023 年 6 月に設立された「西尾市観光・スポーツ・文化共創協議会（西尾市 TSC ボード）」が担っており、従来のスポーツイベントからより幅広い層が参加できるイベントへのシフトをすすめている。2023 年 12 月にしお駅伝フェスティバルが終了し、従来の走力を競うイベントから「ティラノサウルスレース in 城下町」「GATEAUX おかしなマラソン大会」などのエンターテイメント要素を持ったイベントに内容変更を行ってきた。参加者層を拡げることで、スポーツ関係者だけでなく商工関係者等も巻き込み、市全体で経済波及効果を生み出すことを目指している。例えば「GATEAUX おかしなマラソン大会」の場合、チーム構成は 3~10 人と幅を持たせており、チームによって構成人数は様々である。大会当日に不参加者が出ていた場合でも参加資格が消滅しないため、駅伝と違い参加チーム数は申込数どおり確保されるメリットがある。また、2024 年度より「温泉ガストロノミーウォーキング」（補助金対象外）も開催しており、西尾市の特産品である「抹茶・うなぎ・海産物・醸造の街」を PR する手段として活用している。

「する・みる・支える・楽しむ」を掲げている西尾市スポーツ協会の方針に沿って、「競うスポーツイベント」から「楽しむスポーツイベント」への転換は、スポーツ活動への参加の障壁を緩和する役割が期待されている。幅広い年齢層が参加できるような新たなスポーツイベントの創出を今後も注目していきたい。

## 事例⑧ 一般財団法人どんぐり財団（広島県北広島町）

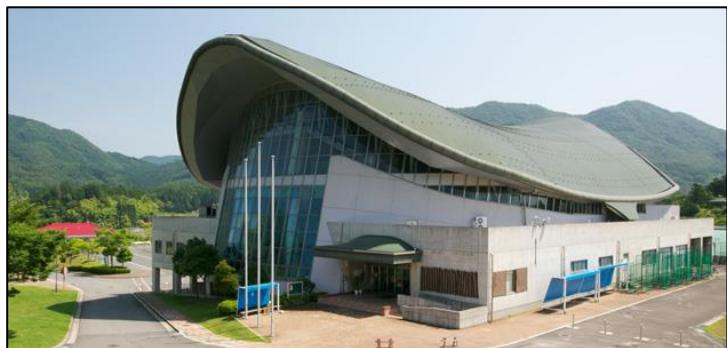
### 1) 自治体の概要

北広島町は広島県の北西部、西中国山地の標高 300m～800m の盆地高原に広がる芸北地域のほぼ中央に位置する、人口約 17,000 人の町である。2005 年に芸北町・大朝町・千代田町・豊平町の旧 4 町が合併して誕生した北広島町は、中国地方で最も広い面積を有する。豊かな自然に恵まれており、八幡地域にある「聖湖」（樽床ダム湖）では湖面に映る紅葉や絶滅危惧種に指定される動植物をみることができる。また、町内には 3 つのスキー場を有しており、冬場には多くのスキー・スノーボード客で賑わっている。

スキー場のほか、公共スポーツ施設として、旧 4 町の運動公園（芸北運動公園・大朝運動公園・千代田運動公園・豊平総合運動公園）が整備されており、様々なスポーツの実施が可能である。スポーツ行政はまちづくり推進課が所管。



聖湖（樽床ダム湖）



豊平総合運動公園（とよひらウイング）

### 2) スポーツコミッショナの設立に至った経緯／設立目的

一般財団法人どんぐり財団は「地域振興を地域住民と共に考え、育て、支えていく」をミッションに、2012 年 4 月に設立された団体である。1989 年の豊平総合運動公園のオープンに合わせて設立された「財団法人とよひらふれあい公園協会」を前身とし、同公園がオープンして以降、管理運営を行っている。したがって、設立当初は指定管理者として、あるいは総合型地域スポーツクラブとしての側面が大きく、地域住民を対象としたインナーアクティビティを積極的に展開してきたが、ここ 10 年ほどはソフトテニスのクラブチームを誘致し、その活動を支援することで、ソフトテニス大会や各種スポーツイベントなどの実施、すなわちアウター活動も展開している。

### 3) 経営多角化に向けた動き（補助事業内容）

#### ①ソフトテニスの拠点形成に向けた活動

国内外のトップチームによる国際的なソフトテニス大会を開催し、地域や地元チームの発信及び指導を希望する高校生等の数を増加させる。

##### 【ソフトテニスの国際大会の開催】

大会名：KITAHIROSHIMA CUP

日程：2024年10月12日（土）～13日（日）

会場：豊平総合運動公園

参加者：選手32名（16ペア・10チーム）



#### ②高校生交流促進に向けた活動

北広島町内外の高校生の交流促進に向けて、若者に人気のあるeスポーツや町独自のスポーツを活用した交流会を実施し、幅広い社会効果のみならず、将来的なスポーツツーリズムの推進に繋がるような活動を展開。

##### 1. eスポーツ講演会

eスポーツの効果やその応用などについての講演会を実施。

日程：2024年8月29日（月）

講師：国際教育eスポーツ連盟ネットワーク日本本部 大浦 豊弘 氏

##### 2. ダンス交流

ダンス大会の上位校を招待し、北広島町で初めて高校生のダンス交流を実施。

日程：2024年11月16日（土）

参加者：日本高校ダンス選手権2024

中四国大会の上位入賞校



### 3. カヤック交流

広島市内の高校生との交流を目的に、カヤックや食事会を実施。

日程：2024年9月28日（土）

会場：聖湖畔



### 4. スキー交流

町内の芸北地域にあるスキー場や関連団体と連携し、伝統芸能である神楽団や地元高校生との交流会を実施。

日程：2025年1月25日（土）

会場：芸北高原大佐スキー場



### 5. カーリング交流

北海道・十勝の幕別清陵高校の生徒と屋外リンクでカーリング交流を実施。

日程：2025年1月28日（火）

会場：幕別町スケートリンク（北海道幕別町）



#### 4) 総括

北広島町では、これまで（一財）どんぐり財団によるスポーツ関連事業が多く実施されてきた。どんぐり財団は豊平総合運動公園の指定管理者として、総合型地域スポーツクラブとして、健康増進事業の推進主体として、様々な取組を実施し、市民のスポーツ・健康づくりにとってなくてはならない存在となっている。これらの活動に加え、2015年4月、北広島町を拠点とする地域密着型の「どんぐり北広島ソフトテニスクラブ」の誕生も重要である。これは、NTT西日本広島ソフトテニスクラブの当時の監督と所属選手、コーチの全てが北広島町に転居することで誕生したクラブで、誕生以降、豊平総合運動公園テニスコートを中心として世界大会やアジア大会で優勝するなどの好成績を収めつつ、地域住民との交流も続けてきた。こうした背景の中で2024年度に取り組んだスポーツ庁補助事業のひとつが、本クラブを国際的な拠点とするための活動である。比較的マイナーではあるものの、北広島町のシンボルともなったクラブを国際的な拠点へと形成し、ひいてはスポーツツーリズムの推進に寄与する資源とする目的とした。具体的には、海外からの招聘チームも含めたソフトテニスの国際大会を北広島町で開催した。今後は、今年度の取組で把握した課題を解決しつつ、毎年国際大会として実施していくことを目指す。

補助事業としてもうひとつ取り組んだ活動が、高校生交流促進に向けた活動である。どんぐり財団では自主活動として「ECS活動」という町内と北海道幕別町の高校生による交流活動を展開している。地元の公立高校への入学者が減少しつつあることから、交流活動によって高校の特徴づけや高校生の地域へのアイデンティティ醸成などを期待している。2024年度はこの活動をサステナブルなものとし、かつスポーツと関連させることで、どんぐり財団の経営の多角化やスポーツツーリズムへの発展も目指す取組を実施した。具体的には、eスポーツ講演会、ダンス交流、カヤック交流、スキー交流、カーリング交流を実施し、町内の高校生が地域外と交流する機会を創出した。今後は、魅力ある高校・地域という視点から町の関連部署との連携や、地元企業からの支援を含め、継続的な実施に向けた検討が必要となるだろう。

## 事例⑨ SAGA 武雄温泉スポーツコミッショナ (佐賀県武雄市)

### 1) 自治体の概要

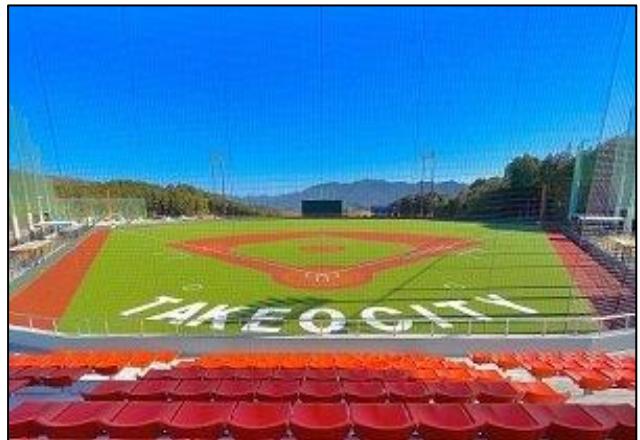
武雄市は、佐賀県の西部に位置する人口約4万7,000人の都市で、2006年に旧武雄市、山内町、北方町が合併して誕生した。町の中心には日本最古の温泉施設である武雄温泉があり、この温泉にある辰野金吾設計の楼門は国の重要文化財に指定されている。

武雄温泉保養村、黒髪山の大楠などの豊かな自然資源をはじめ、3年連続サウナシュラン1位の御船山楽園ホテルサウナ、TSUTAYAを運営するカルチュア・コンビニエンス・クラブ社が指定管理者となる武雄市図書館・歴史資料館など、幅広い年代を惹きつける観光スポットを有している。2022年9月23日に西九州新幹線武雄温泉駅が開業し、「西九州のハブ都市」を標榜する観光都市としての機運が高まっている。

スポーツ施設として、県内初の全面人工芝となる武雄市民球場（ひぜしんスタジアム）を2022年に整備。また、2023年5月に新体育館（ケーブルワン・スポーツパーク）及び周辺の運動公園を整備し、新設の施設を活かした「スポーツ×温泉×観光」など、スポーツを取り入れた観光の取組を目指す。スポーツ行政は企画部スポーツ課が所管。



国指定重要文化財 武雄温泉楼門



武雄市民球場（ひぜしんスタジアム）

### 2) スポーツコミッショナの設立経緯／設立目的

武雄市は2019年の九州北部豪雨による水害に見舞われ、翌年以降は新型コロナウイルスの影響を受け、観光客は減少、特に旅館・飲食業は大きなダメージを受けた。この状況を打破するために、これまで手つかずに入ったスポーツを取り入れた観光の取組を推進するため、2022年3月にスポーツコミッショナを設立した。

合宿誘致による交流人口の拡大に加え、SAGA2024国スポ・全障スポの開催後を見据えた、市民のスポーツ実施率並びにスポーツへの意識向上などを目指している。

### 3) 経営多角化に向けた動き（補助事業内容）

#### ①スポーツウェルネス相談事業

##### 1. 事業関係者からの相談受付

市民のスポーツ・健康に関する課題を把握し、連携協働による解決を促進することを目的に、スポーツコミュニケーション（SC）と市民、スポーツ指導者等との接点を創出するための相談窓口を開設した。

##### 2. 競技団体との情報交流の実現（運営委員会の組成）

事業に関心の高い競技団体の指導者を運営委員として選任し、事業運営に積極的に関与してもらうことで、各競技団体の相談事項や要望を直接把握できる仕組みを構築した。

##### 3. 東京出張

株式会社 R-body、大塚製薬株式会社を訪問

##### 4. スポーツツーリズム・コンベンション in 沖縄 参加（2/20～21）

#### ②スポーツウェルネス共創事業

地域のスポーツ団体の自主大会などの運営をSCが支援・共創することにより、地域主体のスポーツイベントの運営の効率化と収益化を目指した。共創実績は以下のとおり。

##### 1. SCとの共催による自主大会の企画運営支援

- 第1回 U10 小学生バレーボール武雄大会（10/13、武雄市バレーボール協会）

支援内容：弁当事業者の情報提供、キッチンカーの手配、情報発信

- 泉都武雄サッカー大会（12/14-15、武雄市サッカー協会）

支援内容：弁当事業者の情報提供、キッチンカーの手配、情報発信

##### 2. 合同体験会の開催

- トップアスリート交流イベント（1/12、武雄市バトミントン協会）

支援内容：情報発信、プロバトミントンチームとの交渉

##### 3. スポーツ×〇〇による収益イベントの企画運営

- TAKEO キッズパークの開催（2/16）

今年度事業の集大成として、SC、市内スポーツ団体、事業者の共創事業として開催。「スポーツで子ども達の“未来”をととのえる」をコンセプトとし、子ども達が楽しめる体験イベントだけでなく、スポーツをする子ども達を支えるひとを対象としたシンポジウムなどを行った。

＜結果＞

来場者数：1,200名

シンポジウム参加人数：30名



### ③スポーツウェルネス支援事業

地域スポーツ団体指導者からのニーズを受け、スポーツをする子ども達のメンタルやコンディショニング、栄養について知る機会としてのセミナーを実施した。SAGA2024 のメインスポンサーであった大塚製薬より協賛を受け、セミナー講師の派遣に係る費用について協賛をいただいた。

- ・第1回セミナー「マインドセット～こころをととのえる～」

日時：2024年11月30日（土）14:00～16:00

講師：筒井 香 氏（日本スポーツ心理学会認定、スポーツメンタルトレーニング上級士）

内容：メンタルトレーニングの基礎

　　ジュニアスポーツにおけるメンタルスキルの重要性

　　コーチ哲学の確立と指導への活用

　　グループワークによる実践

参加者数：20名（現地）

- ・第2回セミナー「コンディショニング～身体をととのえる～」

日時：2024年12月14日（土）14:00～16:00

講師：ダイス 山口 氏

（米国認定アスレティックトレーナー、

米国 NSCA 認定ストレングス・コーチ）

内容：トータルコンディショニングの概念

　　身体の発育発達に応じた適切なトレーニング

参加者数：23名（現地）13名（オンライン）



- ・第3回セミナー「ニュートリション～栄養をととのえる～」

日時：2025年1月12日（日）14:00～16:00

講師：松本 恵 氏（管理栄養士、公認スポーツ栄養士）

内容：栄養管理の基本とアスリートの食事

　　子どもたちに必要な栄養摂取とそのタイミング

　　REDs 問題など健康障害のリスクと対策

　　栄養チェックのワークショップ

参加者数：38名（現地）



#### 4) 総括

SAGA 武雄温泉スポーツコミッショナは、武雄市企画部スポーツ課を事務局として 2022 年 3 月に設立した地域スポーツコミッショナである。2022 年 7 月にオープンした武雄市民球場（ひぜしんスタジアム）、2023 年 5 月にオープンした新体育館（ケーブルワン・スポーツパーク）などの施設整備と SAGA2024 国スポ・全障スポ開催を契機とした合宿・大会誘致を中心とした活動を行ってきた。

今年度事業では、過年度事業で行ってきた合宿大会誘致を中心としたアウター向けの取組から方針転換を行い、市内のスポーツ関係者、関係団体等との新たな連携を重視したインナー向けの取組を複数行った。スポーツウェルネス支援事業では、スポーツをする子ども達のマインドセット、コンディショニング、栄養、についてのセミナーを実施。本セミナーは SAGA2024 のメインスポンサーであった大塚製薬より協賛を受け、セミナー講師の派遣に係る費用を負担いただいた。国スポの機運を活用しながら新たなネットワークを広げ、短期間で協賛を獲得した点は高く評価したい。

SAGA 武雄温泉スポーツコミッショナは、設立から丸 3 年が経過し、事業や体制の見直しを行うタイミングを迎えている。もともと観光都市である武雄市では、2022 年 9 月の西九州新幹線武雄温泉駅の開業やインバウンドの回復の影響から市内の観光需要が戻りつつあり、市内宿泊施設の確保が難しくなってきた。過年度事業で注力してきたスポーツ合宿やスポーツ大会利用者は、観光目的の利用者よりも低単価にならざるを得ず、スポーツツーリズムの更なる発展には宿泊事業者をはじめとした観光事業者との連携が不可欠だ。過年度で実施してきたアウター事業と、今年度新たに取り組んだインナー事業の振り返りや検証を踏まえ、両社を有機的に組みあわせた新たな体制の構築に期待したい。

## 事例⑩ スポーツ観光おおさき（鹿児島県大崎町）

### 1) 自治体の概要

大崎町は鹿児島県の東南部、大隅半島の東部に位置する人口約 12,000 人の町である。1998 年以降、ごみの最終処分場が満杯になる危機感から町全体で資源リサイクルに力を入れており、12 年連続リサイクル率日本一を達成するなど「リサイクルのまち」として知られている。

2019 年に町内唯一の高校が廃校となり、その跡地に鹿児島県が陸上競技のトレーニングに特化した合宿施設「ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅」を整備した。日本陸連 3 種公認陸上競技場のほか、冷暖房完備で 150m の直走路を備える室内競技場を有する日本唯一の施設である。また、大崎町は陸上競技を中心に増加してきたスポーツ合宿受入体制を整備し、長距離選手のトレーニングに対応可能な「くにの松原クロスカントリーコース」も整備を行い、同コースはアスリートだけでなく、地域住民のウォーキングなどにも利用されている。スポーツ行政は教育委員会社会教育課及び商工観光課が所管。



ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅（陸上競技場／室内競技場）

### 2) スポーツコミッショナの設立に至った経緯／設立目的

ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅の供用開始以降、県内外の合宿利用者の延泊数年間 4,500 人泊まで増加した（2019 年実績）。一方でソフト面でのサポート体制、雰囲気作り、飲食や観光の提案については、利用者からも改善要望の声があがっている。

地域が一体となってこれまで以上に連携し、スポーツ合宿をはじめとしたスポーツツーリズムへの受入体制を構築していくため、地域スポーツコミッショナを設立した。設立後は新たなコンテンツの造成及び組織構築、専門的な人材育成を経て、持続的な運営が可能な体制を目指す。

### 3) 経営多角化に向けた動き（補助事業内容）

#### ①スポーツツーリズム活性化事業

スポーツツーリズム（スポーツ合宿・大会）のさらなる誘致のため、新規顧客の獲得や既存顧客の再訪をねらう取組を実施。

##### 1. フライングディスク大会

合宿集中時期以外での新たなイベントとして、また、これまで合宿に来ることがなかった種目層へ施設環境や奨励金制度を周知することを目的に開催。

大会名：FUN!ULTIMATE OSAKI OPEN 2024

日程：2024年10月19日（土）～20日（日）

会場：大崎町中央公園運動場

主催：一般社団法人スポーツ観光おおさき

参加者：10団体（町内2団体）、延べ200名

体験ブース50名、観客30名 2日間延べ280名の交流



##### 2. 電動キックボードを活用したモニターツアー

町の課題である二次交通の不便さの解消の手段として、電動キックボードを活用したモニターツアーを実施。

試乗体験者116名（4イベント）

##### 3. 町内情報の周知

町内の観光資源の情報が合宿者に行き届いていないことから、既存パンフレットとは差別化を図った合宿者のニーズに特化したパンフレットを作成。



#### ②地域の特色を活かした地域ブランド向上事業

町内事業者と連携し、町の食資源や特産品を活用することで、合宿・大会で訪れるアスリートに対して食を通じたおもてなし（アスリート用補食、新規商品開発）を行う。



### ③くにの松原ミニマラソン開催事業

町の観光スポットである「くにの松原」とスポーツ資源である「くにの松原クロスカントリーコース」を活用したミニマラソン大会を実施。合わせて、ランニングコーチによるクリニックや運動に適した食事の紹介など、運動の習慣化や健康増進に繋がる取組も実施。

大会名：大崎くにの松原クロスカントリー大会

日程：2024年11月10日（日）

種目：1km、3km、5km、ファンラン2km、ファンラン4km

場所：くにの松原クロスカントリーコース及び周辺遊歩道

ゲスト：薄田 健太郎 氏（DeNA Athletics Elite）、TWOLAPS コーチ

主催：大崎くにの松原クロスカントリー大会実行委員会（（一社）スポーツ観光おおさき）

参加者：クリニック35名、大会65名、ファンラン25名（延べ125名）



### ④スポーツ合宿・大会誘致営業研修事業

スポーツ合宿・大会を誘致するための専門的な営業スキルを身につけるため、座学と実践を通じた営業研修を実施。

DAY1（座学）：セールス＆マーケティングの全体像（7月23日）

DAY2（座学）：営業トークと事前準備（8月21日）

DAY3（実践）：営業実践＆営業数値管理（9月11日～13日）

DAY4（座学）：営業実践振り返り＆営業資料作成（11月12日）

DAY5（実践）：営業実践②（2月5日～7日）

DAY6（座学）：営業活動全体の振り返りと今後（2月28日）

#### 4) 総括

大崎町では、日本で唯一の陸上競技に特化した施設「ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅」を中心に陸上競技のみならず様々な競技のスポーツ合宿誘致を実施してきた。こうした合宿誘致の取組を地域経済へ波及させ、交流人口の増加を図るとともに、アスリートと町民を繋げる機会を創出し、スポーツ機会の拡充と健康福祉の向上を目指して2023年3月に「スポーツ観光おおさき」（地域スポーツコミッショナ）を設立した。設立初年度となる2023年度は、将来的に運営の自走化が可能な組織となるべく、組織の中核を担う人材の確保及び育成、民間事業者と連携したおもてなしの推進、認知度向上のための効果的なプロモーションを実施した。2年目となる2024年度は、2023年度事業をさらに発展させた4つの事業に取り組んだ。

こうした事業への取り組みのベースとなる動きが、自治体内の任意団体であったコミッショナ組織の一般社団法人化である。スポーツ観光おおさきは2024年7月に「一般社団法人スポーツ観光おおさき」として法人格を取得し、任意団体のコミッショナ担当であった民間採用の事務局長、地元採用の職員、地域おこし協力隊の3名がそのまま新組織のプロパー職員として活動を開始している。2024年度は主にスポーツ庁補助事業である4つの事業（①スポーツツーリズム活性化事業、②地域の特色を活かした地域ブランド向上事業、③くにの松原ミニマラソン開催事業、④スポーツ合宿・大会誘致営業研修事業）に取り組み、経営の多角化や人材の育成を目指した。

大崎町は設立当初から近い将来の独立（法人化）を目指していたが、計画通りに設立から1年半で達成したことになる。さらに、法人化したコミッショナの担当職員は自治体職員の出向などではなく、すべて外部からの人材で成り立っている点も注目される。現状、人件費は町の財源、事業費はスポーツ庁補助事業や町の委託事業に支えられているが、将来的にはスポーツツーリズム事業による自主財源の確保を目指している。設立、採用、独立と多くの自治体やコミッショナにとって参考となる事例であるスポーツ観光おおさきの今後の活動に注目したい。

## 事例⑪ スポーツコミッショナ沖縄（沖縄県）

### 1) 自治体の概要

沖縄県は日本列島の最南西端に位置し、東西約 1,000km、南北約 400km の海域に点在する大小 160 の島々で構成されている人口約 147 万人の広域自治体である。日本で唯一、亜熱帯海洋性気候に属し、年間の平均気温は 23 度と温暖で過ごしやすい気候に恵まれている。美しい海域や多くの固有種・希少種を育む森林・河川、琉球時代からの文化遺産や民俗芸能を数多く有しており、国内でも指折りの観光地である。

県内には 2 つの大規模運動公園が存在しており、那覇市にある奥武山公園には武道館、弓道場、プール（25m、50m、飛び込み）、陸上競技場、テニスコートなどが整備されている（野球場である沖縄セルラースタジアム那覇は那覇市の所有）。沖縄市にある沖縄県総合運動公園には日本陸連第一種公認「タピック県総ひやごんスタジアム」をはじめとして体育館、蹴球場（サッカー・ラグビー場）、プール（25m、50m）、自転車競技場などが整備されている。スポーツ行政は文化観光スポーツ部スポーツ振興課が所管。



武道館（アリーナ）



タピック県総ひやごんスタジアム

### 2) スポーツコミッショナの設立に至った経緯／設立目的

沖縄でのスポーツ合宿・キャンプの高いニーズを背景に、沖縄県はスポーツを活用した沖縄観光の新たな魅力の創出や着地型観光の拡充を図るため、2010 年度からスポーツツーリズム関連事業を実施してきたが、施設の確保など受入体制の整備には課題があった。こうした課題解決及びさらなる発展に向け、全県的なネットワークの強化とワンストップ窓口機能として 2015 年 4 月にスポーツコミッショナ沖縄を設立した。設立当初は、（一財）沖縄観光コンベンションビューローに事務局を設置していたが、スポーツ合宿・大会誘致のためには競技団体との連携強化が必須となることから、2016 年 4 月に（公財）沖縄県体育協会（現・（公財）沖縄県スポーツ協会）に事務局を移管した。

### 3) 経営多角化に向けた動き（補助事業内容）

#### ①広域連携によるスポーツコンベンション誘致活動の強化

スポーツコンベンションの実施を希望するチームの受入環境に対する要望は多様化しており、より充実した環境を提供するために市町村間における広域連携や情報提供等を行う。

##### 1. 誘致戦略会議の開催

###### 【第1回】

日程：2024年4月23日（火）

場所：名護市21世紀の森 サッカー・ラグビー場会議室

参加者：スポーツコミッショナ沖縄、競技団体、関連自治体、ホテル関係者など

###### 【第2回】

日程：2024年10月8日（火）

場所：読谷村役場会議室

参加者：スポーツコミッショナ沖縄、沖縄県、競技団体、関連自治体

###### 【第3回】

日程：2024年11月22日（金）

場所：オンライン

参加者：スポーツコミッショナ沖縄、競技団体、関連自治体

##### 2. スポーツコンベンション誘致活動

###### 【協会・リーグ】

日本バドミントン協会／日本バレーボール協会／日本バスケットボール協会

日本ソフトボール協会／日本ラグビーフットボール協会／Bリーグ／Jリーグ

###### 【チーム】

東京サントリーサンゴリアス／埼玉ワイルドナイツ／サントリーサンバーズ

###### 【大学】

神奈川大学サッカーチーム

###### 【施設】

有明アーバンスポーツパーク／J-GREEN 埼玉

###### 【海外】

中華民国スポーツ総会／台北市スポーツ協会

中華民国バレーボール協会／台湾自由車運動協会

###### 【団体】

日本スポーツ政策推進機構



## ②スポーツコンベンション受入対応向上に係る体制構築

今後、新たに誘致した競技やチームのスポーツ合宿の満足度を高め、継続した合宿の実施に向けて多様なチームの要望に対する環境を整備。

### ＜実施内容＞

- ・トレーニング機材、輸送手段などの補完的機能の支援（11件）
- ・合宿受入に係る支援人材（トレーナー・身体能力測定機関等）の紹介および育成（2件）

## ③継続的なキャンプ・合宿受入の実現に向けたチームと受入地域の関係構築支援

スポーツ合宿が継続して実施されるためには地域とチームの関係構築が重要であり、地域住民の理解が必要不可欠であることから、地域とチームの交流等を創出する。

### 1. 沖縄ラグビークリニック in 名護

日程：2024年8月4日（日）

場所：名護市21世紀の森 サッカー・ラグビー場

参加者：沖縄県内の高校生ラグビー選手（70名）

チーム：横浜キャノンイーグルス選手・コーチ

内容：選手・コーチによるラグビークリニック、栄養サポートランチの講話



### 2. 自転車プロロードレースチームとの交流

日程：2025年1月16日（木）／1月20日（月）

場所：恩納村立仲泊小学校／恩納村立山田小学校

参加者：仲泊小学校6年生17名／山田小学校6年生22名

チーム：VC FUKUOKA選手・スタッフ

内容：自転車競技チームの紹介・選手の話、自転車交通安全指導講習



#### 4) 総括

スポーツコミッショントリニティ沖縄は、(公財)沖縄県スポーツ協会に事務局を置き、沖縄県、(一財)沖縄観光コンベンションビューローを構成団体とする地域スポーツコミッショントリニティ沖縄である。様々なステークホルダーとの協力関係の確保及びスポーツコンベンション分野の幅広い課題に対応した取組を進める県内関連団体とのネットワーク構築を通じて、効率的かつ効果的なスポーツコンベンションの受入を図ることを目的としている。コミッショントリニティ沖縄では、これまで国内外からの問い合わせに対するコーディネートやスポーツ環境のプロモーションなど、沖縄県のスポーツコンベンションの拡大に取り組んできたが、2023年8月のFIBAバスケットボールワールドカップ2023の沖縄開催を契機に、スポーツを活用した地域振興への期待がますます高まっており、スポーツコンベンションをこれまで以上に推進していく必要性や、沖縄県全域におけるスポーツコンベンション推進の中核組織としてコミッショントリニティ沖縄の担う役割が大きくなってきた。

こうした背景の中、2024年度はスポーツコンベンションの受け入れに係る3事業（①広域連携によるスポーツコンベンション誘致活動の強化、②スポーツコンベンション受入対応向上に係る体制構築、③継続的なキャンプ・合宿受入の実現に向けたチームと受入地域の関係構築支援）に取り組んだ。これらの事業はいずれもコミッショントリニティ沖縄が主体的に取り組むのは初であり、これから沖縄県全域のスポーツコンベンション誘致における中核的な組織として「スポーツコミッショントリニティ沖縄」の位置づけを確固たるものとするべく活動した。

特徴的な事業は、②スポーツコンベンション受入対応向上に係る体制構築である。多様化するチームの要望に対して的確に応え、沖縄県でのスポーツ合宿の付加価値を加えていくことを目指した。特に沖縄ではトレーニング機材の輸送が難しく、高額になるケースが多いため、県内にある機材を支援する取組や空港・宿舎間の送迎支援が好評であった。こうした課題は、差はあれど他の都道府県でもみられることから、都道府県単位のコミッショントリニティ沖縄の活動の参考になると考えられる。最もスポーツコンベンションの誘致が盛んな沖縄県での取組が全国に波及することを期待したい。

## 事例⑫ 沖縄市スポーツコミッショナ (沖縄県沖縄市)

### 1) 自治体の概要

沖縄市は沖縄本島の中央部に位置し、那覇市から北東に約 20km の距離にある人口約 14 万人の都市である。年間の平均気温が 22 度と 1 年を通じて温暖な気候に恵まれている。市域の約 36%を米軍基地及び自衛隊基地が占めており、隣接する嘉手納基地の影響から米軍を対象とした商業や娯楽サービスが発展した。また、1996 年には「スポーツコンベンションシティ宣言」を行い、スポーツ交流によるまちづくりを他市に先駆けて実践している。

市内には沖縄市が所管するコザ運動公園と沖縄県が所管する総合運動公園が存在し、多くのスポーツ施設に恵まれている。なかでも、2021 年 3 月コザ運動公園内に整備された「沖縄サントリーアリーナ」は、全国でも有数の設備を備えたアリーナとして注目を集めている。また、「コザしんきんスタジアム」(コザ運動公園) や「タピック県総ひやごんスタジアム」(県総合運動公園) もプロ野球や J リーグのキャンプ・試合などで活用されている。スポーツ行政は経済文化部観光スポーツ振興課が所管。



沖縄サントリーアリーナ



コザしんきんスタジアム

### 2) スポーツコミッショナの設立経緯／設立目的

1996 年にスポーツ交流のまちづくりを目的に「スポーツコンベンションシティ」を宣言しており、市内のコザ運動公園、県総合運動公園にはプロ・アマ問わず多くのスポーツ団体・選手が訪れている。こうした恵まれたスポーツ環境を最大限に活用し、スポーツキャンプ・合宿等の誘致、受入体制の整備及びプロスポーツの支援等を通して、交流人口の拡大やさらなるスポーツコンベンション・スポーツツーリズムの推進に取り組み、青少年の健全育成や地域の活性化に資することを目的として 2020 年 4 月に設立 (事務局を担う (一社) 沖縄市観光物産振興協会の法人化は 1967 年 12 月)。

### 3) 経営多角化に向けた動き（補助事業内容）

#### ①沖縄市国際ユースサッカー親善フェスティバル

Jリーグ所属クラブのアカデミーU-15チーム、沖縄市内サッカーチームとの交流戦を通して技術力の向上および青少年少女の健全育成に寄与する。

日程：2024年12月7日（土）～8日（日）

会場：沖縄市陸上競技場（コザ運動公園内）

主催：一般社団法人沖縄市観光物産振興協会（沖縄市スポーツコミッショング大会運営本部）

参加チーム：大宮アルディージャU-15、忠北清州FC、TCLS 楽活豹、FC琉球OKINAWA U-15

JFAトレセン沖縄U-15、エステピコ沖縄

参加者：海外46名、県外21名、県内90名 合計157名



#### ②台北マラソンブース出展/SPORTECブース出展

##### <台北マラソンブース出展>

台北マラソンにおけるPRのためのブースを出展し、来場者に対しておきなわマラソンの魅力を伝え、誘客を図る

日時：2024年12月12日（木）～14日（土）

場所：台北マラソンEXPO

来場者数：50,911人



##### <SPORTECブース出展>

スポーツコミッショングパビリオンコーナーに出展し、PRおよび県外スポーツコミッショングとコミュニケーションを図る。

日時：2024年7月15日（月）～18日（木）

場所：東京ビッグサイト

来場者数：37,611人



### ③ドッジボール全国大会誘致活動

全国小学生ドッジボール選手権の沖縄での開催はこれまでにないため、開催を打診するとともに開催に向けての条件や必要な内容を整理する。

日時：2024年8月17日（土）～19日（月）

場所：アダストリアみとアリーナ

参加者：48チーム（1チーム12～15名程度）

### ④オリンピアンランニング教室

日本を代表するアスリートから走る喜びや将来の夢、目標の設定などを学ぶ。体力の向上だけでなく、人材育成の場とする。

イベント名：ワンラン（走る喜びをワンランクアップ）

日時：2025年1月25日（土）<第1回>

2025年2月1日（土）<第2回>

アスリート：江里口 匡史 氏<第1回>

竹澤 健介 氏<第2回>

参加者：25名<第1回>

52名<第2回>



### ⑤車椅子陸上体験

沖縄市出身のパラアスリートである上与那原寛和選手による陸上体験を実施。子どもたちに車椅子陸上の体験とオリパラレガシーを学ぶ機会を創出する。

イベント名：パラスポーツ親子スポーツ教室（車椅子陸上体験）

日時：2024年12月1日（日）

場所：沖縄市陸上競技場（コザ運動公園内）

参加者：42名



#### 4) 総括

沖縄市は 1996 年、スポーツ交流のまちづくりを目的に「スポーツコンベンションシティ」を宣言しており、自治体・市民とともにスポーツへの親しみが深い。市内には沖縄県でも最大級のスポーツ施設群であるコザ運動公園（沖縄市立総合運動場）と沖縄県総合運動公園を有し、広島東洋カープの春季キャンプ（1982 年～）を筆頭に多くのスポーツ団体が合宿に訪れている。特に合宿シーズンとなる 1 月～3 月にかけては、県外から合宿で訪れるチームなどが沖縄市スポーツコミッショント連携することで、優先的に公共施設を利用できるようにするなど、他の自治体にはない措置を図っている。さらに、FIBA バスケットボールワールドカップ 2023 の予選ラウンドとしても使用され、琉球ゴールデンキングスのホームアリーナである沖縄サントリーアリーナは、全国的にも成功した事例として有名である。

このように恵まれたスポーツ環境がある沖縄市では、以前は（一社）沖縄市観光物産振興協会がスポーツコンベンションやスポーツツーリズム関連事業を実施していたが、さらに効率的・効果的に事業を推進するため、沖縄市、沖縄市観光物産振興協会、沖縄市スポーツ協会、沖縄文化スポーツイノベーション（株）（コザ運動公園の指定管理者）で構成される「沖縄市スポーツコミッショント」を 2020 年 4 月に設立し窓口一本化として活動している。（一社）沖縄市観光物産振興協会はこれまでも様々な自主事業・委託事業・補助事業等によって合宿誘致やスポーツツーリズム関連の取組を実施していたため、その経験やノウハウが蓄積されている。（一社）沖縄市観光物産振興協会内に沖縄市スポーツコミッショント事務局を設置することで、予算の獲得から事業の実施、精算に至るまではほぼワンストップで行う体制がとれている。他自治体の例を見ても、スポーツコミッショントの設立にあたっては新規の団体を立ち上げるケースがほとんどであるが、地元に適切な既存団体がある場合は事務局を任せることでスムーズに物事が進むという事例となるだろう。

## 事例⑬ 石垣島スポーツコミッショナ（沖縄県石垣市）

### 1) 自治体の概要

石垣市は石垣島及び尖閣諸島を市域とする日本最西端・最南端の市である。石垣島を含め 12 の有人島、多くの無人島からなる八重山諸島の中心都市でもあり、人口は約 5 万人である。年間平均で 20℃ を超える温暖な気候、屈指のサンゴ礁が広がる透明度の高い美しい海、光害の少ない星空など、日本でも有数の自然資源に恵まれている。

こうした自然資源などを活かし、これまでにもスポーツ大会・合宿・キャンプの誘致に取り組んできた。近年ではプロ野球・千葉ロッテマリーンズの春季キャンプを始め、実業団、大学、高校と幅広い世代・競技ジャンルを受け入れていることから「スポーツアイランド」を標榜している。市としては、これまでの取組をさらに発展させ、まちづくりや地域活性化に繋げることを目指している。スポーツ行政は企画部スポーツ交流課が所管。



川平湾



中央運動公園野球場

### 2) スポーツコミッショナの設立に至った経緯／設立目的

これまで「スポーツ！ ウエルカム！ 石垣島！」事業などの取組により、プロ野球、プロサッカー、陸上競技を始め、多くの合宿誘致に成功しているが、誘致が目的となっているケースも散見され、スポーツと景観・環境・文化など地域資源と掛け合わせた取組が考慮されていない。また、誘致についても受け入れ窓口が統一されていないことから、ニーズに応えきれていなかった。スポーツコミッショナ設立によって窓口の統一を図ることで、顕在・潜在ニーズに応え、これまで以上の合宿・キャンプの拡大を目指す。また、受け入れた合宿・キャンプと地域資源を掛け合わせることで、まちづくりや地域活性化に繋げる取組を推進する。

### 3) 経営多角化に向けた動き（補助事業内容）

#### ①スポーツ合宿を通じた働き手不足解消事業

高等教育機関がないことから、20歳前後のアルバイトとしての働き手が極端に少ないと いう社会問題の解決のため、「アルバイト×合宿」の取り組みを推進する。

##### 1. PR活動

アルバイトの誘致活動を行うための公式サイトを作成。サイト内には合宿で使用可能なスポーツ施設の詳細や宿泊先が閲覧可能。アルバイト先の情報として、時給や業務内容なども掲載。

##### 2. 誘致活動

石垣市での合宿実績のある大学をはじめとして4つの大学に対して誘致活動を実施。

##### 3. 島内事業所の受入体制の整備

商工会・観光交流協会を通じたアンケートを実施。「働き手が不足している」と回答した事業所に対して「アルバイト×合宿」の事業を説明。20事業所をアルバイト先として確保。

#### ②スポーツフェスティバル開催事業

島民のスポーツへの意識と意欲の向上を目的に、各種スポーツの体験、トップアスリートによる競技披露など、幼児から高齢者まで誰もが気軽に参加できるフェスティバルを開催。

日程：2024年10月5日（土）、6日（日）

主催：石垣島スポーツコミッショナ

会場：石垣市中央運動公園、石垣市総合体育館

参加者：5,293名（同時開催の八重山の産業まつりに6,422名）

体験プログラム：Motion-DNA、ベースボール5、ウォーキング、ZUMBA、ヨガ、サウンドテーブルテニス、ボッチャ、モルック、ニュースポーツ、デジタルスポーツ、eスポーツ等

トップアスリート：四十住さくら選手によるスケートボード実演、トークショー

大会：4v4（本田圭佑氏考案の4人制サッカー）、HIPHOP、スケートボード



### ③サイクリングイベント開催事業

石垣市出身のプロサイクリスト・新城幸也選手監修の「新城幸也ロード」を活用したサイクリングイベントを開催。サイクルツーリズムの発展と自転車人口の拡大を目的とする。

日程：2024年11月30日（土）、12月1日（日）

会場：石垣市船蔵公園

種目：ロングコース100km／ミドルコース73km／ショートコース46km

大会前日にはプッシュバイク大会、小学生ライドイベントを開催

主催：石垣島スポーツコミッショナ

参加者：200名



### ④ユニバーサルスポーツ大会開催事業

天候や場所に左右されず、誰でも簡単にできるユニバーサルスポーツ「モルック」の大会を開催し、市民のスポーツ実施率の向上を図る。

日程：2025年2月23日（日）

会場：石垣市中央運動公園 屋内練習場

主催：石垣島スポーツコミッショナ

参加者：96チーム（430名）※募集チーム数：最大96チーム

島外12チーム（東京、千葉、神奈川、石川、大阪／浦添、宜野湾、与那国）

島内84チーム



#### 4) 総括

石垣市は、温暖な気候、花粉の飛散なし、美しい海洋資源など日本でも屈指の自然資源に恵まれ、さらにプロスポーツのレベルでも受け入れ可能なスポーツ施設、多くの観光客に裏付けされた豊富な宿泊施設といった人工的な資源においても国内有数の環境が整っている。こうした資源を活用し、これまで多くのスポーツ合宿・キャンプの誘致に成功してきた。一方で、誘致が目的となっているケースも散見される、地域資源と掛け合わせたコンテンツの提供ができていない、誘致の受け入れ窓口が統一されていないなどの課題も存在している。また、スポーツツーリズム関連事業が島民のスポーツに対する意識や意欲の向上、心身の健康増進に貢献するような連携もほとんど行われてこなかった。2024年度は、2023年度に統いてこうした課題の解決に向け、複数の取組を実施した。

まず、昨年度に引き続き「スポーツフェスティバル」を開催した。2024年度の新たな取組として、市民が継続してスポーツを実施できる体制を構築し、スポーツ実施率の向上を図るため、健康運動指導士やスポーツトレーナー、運動・スポーツを学んでいる大学生を招聘し、体力測定で得たデータをもとに必要な運動を明確化して参加者にフィードバックするブースを設置した。また、ブース出展者には体験者へ入会特典をつけるように積極的に促した。あわせて、全国規模の大会（4v4）をフェスティバルと同時開催することで地域外からの誘客を図った。

このほか、夏は熱く、冬は雨が多い石垣市でも天候に左右されず、誰でも容易に実施が可能なユニバーサルスポーツとしてモルックを取り入れ、100チーム規模の大会を開催した。大会にはフィンランド大使を招聘し、前夜祭から大会当日まで石垣市でもモルック普及発展に努めていることをPRした。大使からは次年度の大会もぜひ参加したいとの言葉をいただいた。また、この大会は沖縄県下で初めて県外からの参加者を募った大規模モルック大会であり、島内団体であるモルック石垣島とコミッショングが協働して運営したこと、新たなスポーツ関係団体との深い繋がりが構築できたことも成果である。

石垣島スポーツコミッショングでは、こうした動きを持続的・発展的にしていくための人材として、コミッショング業務に従事する地域おこし協力隊を2024年4月から採用している。今年度のスポーツ庁補助事業に加え、コミッショング関連業務を自治体職員と共に実施することで、人脈やノウハウの継承を進めている。協力隊の任期終了を目指し、コミッショングの法人化（あるいは外郭団体への事務局移管）を想定していることから、より一層の人材・財源の確保に期待したい。

2024 年度  
地域スポーツコミュニケーションの経営多角化及び新規設立に向けた  
総合コンサルティング  
報告書

2025 年 3 月  
一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構